

(道徳)

**個性を認め、互いの良さを尊重しあえる集団づくり
—道徳科の学習を通して伝え合う力の育成—**

大阪市立四貫島小学校

1. 研究主題設定の理由

児童数160名あまりの小規模校の本校では、一人一人を大切にしながら、子ども達の自尊感情や自己肯定感を意識し、高める教育を行ってきた。また、個々の子どもどうしの関わりをより深めるために、たてわり班活動や異年齢交流にも力を入れて、活発に行っている。一昨年度より人権教育との関連を図りながら、道徳の指導を中心に研究に取り組むことで、互いのよさを尊重し合える集団形成を目指してきた。

昨年度までの研究では、①資料提示 ②発問 ③表現方法 ④話し合い ⑤書く活動について、一定の成果を上げることができた。また、学校評価アンケートでは、「学校のきまりやルールを守り学校生活を送っている」「自分にはよいところがある」「友だちのよいところを見つけることができる」という項目について、高い割合で肯定的回答を得ることができた。

しかし、ひとつの学級単位の取組みだけでなく、学校全体でのふれ合いや意見交流の機会を作り、計画的に実施していくことが必要だと感じた。また、平成30年度から「特別の教科道徳」（以下、道徳科）が実施されることで、授業の構成や「道徳ノート」の活用方法など、検討すべき点が今後とも増えていくことが予想された。

したがって、昨年度に引き続き「道徳科」を基軸として取りあげ、研究主題を「個性を認め、互いの良さを尊重しあえる集団づくり—道徳科の学習を通して伝え合う力の育成—」と設定した。児童が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力を育みたい。そのために、我々は自分の考えをもとに話し合ったり書いたりするなどの言語活動を充実できるよう指導方法を工夫し、多様な話し合いの形式を取り入れながら、子どもの心情の変化に迫る指導の在り方を追求する。そして実際の生活場面でも自己の生き方についての考えを深める学習を通して、互いのよさを尊重し合える望ましい集団形成を目指す。

2. 研究の視点と内容

(1) 学校全体を通しての道徳教育の充実

①道徳教育全体計画の作成の見直し

- ・道徳科の時間と各教科および特別活動における指導の内容、並びに地域社会と連携しながら道徳教育の推進にあたる。

②異年齢児童の交流

- ・たてわり班活動の活性化
- ・ペア学年による交流

③各学年の実践

(2) 道徳科の時間における研究課題

①道徳的価値についての良さを理解し、実感するための指導方法の工夫

- ・資料提示の工夫
- ・発問の工夫

- ・表現方法の工夫
- ・話し合いの工夫
- ・書く活動の工夫
- ・板書の工夫

②指導課程について

「導入段階→展開前段→展開後段→終末段階」の四段階からなる資料を用いた指導過程

3. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- ・道徳科の授業だけでなく、学級で実践している自他を尊重する気持ちを高める取り組みやたてわり班での様々な活動を通して、友だちとの関係が深まり、助け合ったり教え合ったりするという姿が多く見られるようになった。また他の学年の児童との関わりも広がり、声をかけ合う姿が増えた。特に高学年は、下級生の世話をより積極的にするようになった。今後も異年齢交流を通して、自尊感情を高める取り組みを継続していきたい。
- ・指導方法（資料提示・発問・表現活動・話し合い・書く活動・板書）の工夫をすることにより、児童が課題意識をもち、主体的に考え、話し合いができるようになった。ねらい・児童の実態・教材や学習指導課程などに応じて、最も適切な指導方法を選択し、工夫して生かしていく必要がある。
- ・資料を通して高められた価値観に照らして、自分自身を振り返り、「道徳ノート」に思いを書くことができた。また、「道徳ノート」にしっかりと蓄積していくことで、自分の考えの変化や授業のつながりを意識することができ、道徳的価値を自覚することのできる児童が増えてきた。また指導者も評価しやすかった。
- ・学校評価アンケートでは、以下の質問において今年度も高い割合で肯定的回答を得ることができた。

| 質問内容 | 低学年 | 高学年 | (%) |
|-------------------------|------|------|-----|
| 学校のきまりやルールを守り学校生活を送っている | 89.9 | 88.9 | |
| 自分にはよいところがある | 84.8 | 74.1 | |
| 友だちのよいところを見つけることができる | 86.1 | 93.8 | |

(2) 今後の課題

- ・導入から中心発問へとつながる流れとして、価値への方向付けが大事である。補助発問をすることで、再度考えさせたり、資料にもどり、大事なキーワードを見つけたりすることで、ねらいに迫れるようにしていく必要がある。
- ・意見交流の時間や発表の時間をしっかり確保して、表現する機会の充実を図る。
- ・道徳科の時間だけでなく、家庭、地域も含め、あらゆる教育活動を通して、道徳教育の推進・深化をしていき、道徳的実践力を育成していく。